

岡田遺跡 現地説明会資料 (令和4年 10月 22日)

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1. はじめに

岡田遺跡は北上市村崎野第 12 地割内にあります。この一帯が遺跡であることは以前から知られていました。このたび「北上北部産業業務団地」の造成事業が計画されたことから、遺跡の内容を後世に伝えるため、工事の前に発掘調査を行うこととなりました。

私たち(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは、5 万平方メートルを超える広大な範囲を対象に、今年 4 月から発掘調査を進めてきました。その結果、当初の予想をはるかに超えた密度で、過去の人々が刻んだ生活の痕跡が見つかりました。

丘の上一面に広がる落とし穴群は縄文時代、寄りそって並ぶ竪穴住居跡は平安時代のものです。縄文時代は狩りの場として、平安時代は暮らしの場として。時代の流れとともに、人々にとってのこの丘の意味も移り変わったのでしょうか。

土器や石器など、持ち帰って保管できる「遺物」とは違い、地面に刻まれた痕跡を現地で直接ご覧いただける最後の機会となります。是非じっくりとご覧いただき、先人の暮らしぶりに思いをはせてみてください。

2. 縄文時代の狩り場に作られた落とし穴



岡田遺跡では 300 基に迫る落とし穴が見つかっており、そのほとんどが溝状のものになります。長さは3~4m程度のもので、2~5mまでの幅があります。これらの落とし穴は尾根頂部に数多く、北向き・南向きの両斜面にも分布が広がっています。両斜面部では長辺が等高線に沿うようにして複数の落とし穴が作られています。一方、尾根頂部に目を向けると、長辺が等高線に直交する落とし穴が多く作られていることが確認できます(写真)。



この他にも平面形が鉄アレイ形をしたものや、溝状のものよりは底面の幅が広く、小さな穴を持つ落とし穴も見つかっています。このような形態の違いは、落とし穴が作られた時期の違いや対象とする獲物の違いがあるのかもしれませんが。

広い丘のほぼ全域を調査できたことで、縄文時代の落とし穴猟の様子が分かる良好な資料を得ることができました。

3. 平安時代の人々が暮らした竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡は 15 棟見つかりました。縄文時代の住居とは違い、全体を正方形や長方形に近い形に掘りくぼめ、床面を平坦にし、屋根などの上屋を支える柱を立てる穴や、食料や物資を貯蔵するための穴が掘られています。竪穴の壁際に溝が巡るものもあり、住居の壁とする板材を差し込んで立てるための溝と推定されます。屋根や壁は当時の姿では残



存していませんが、火を受けた炭化材が床面に残っていた住居跡もありました(写真)。

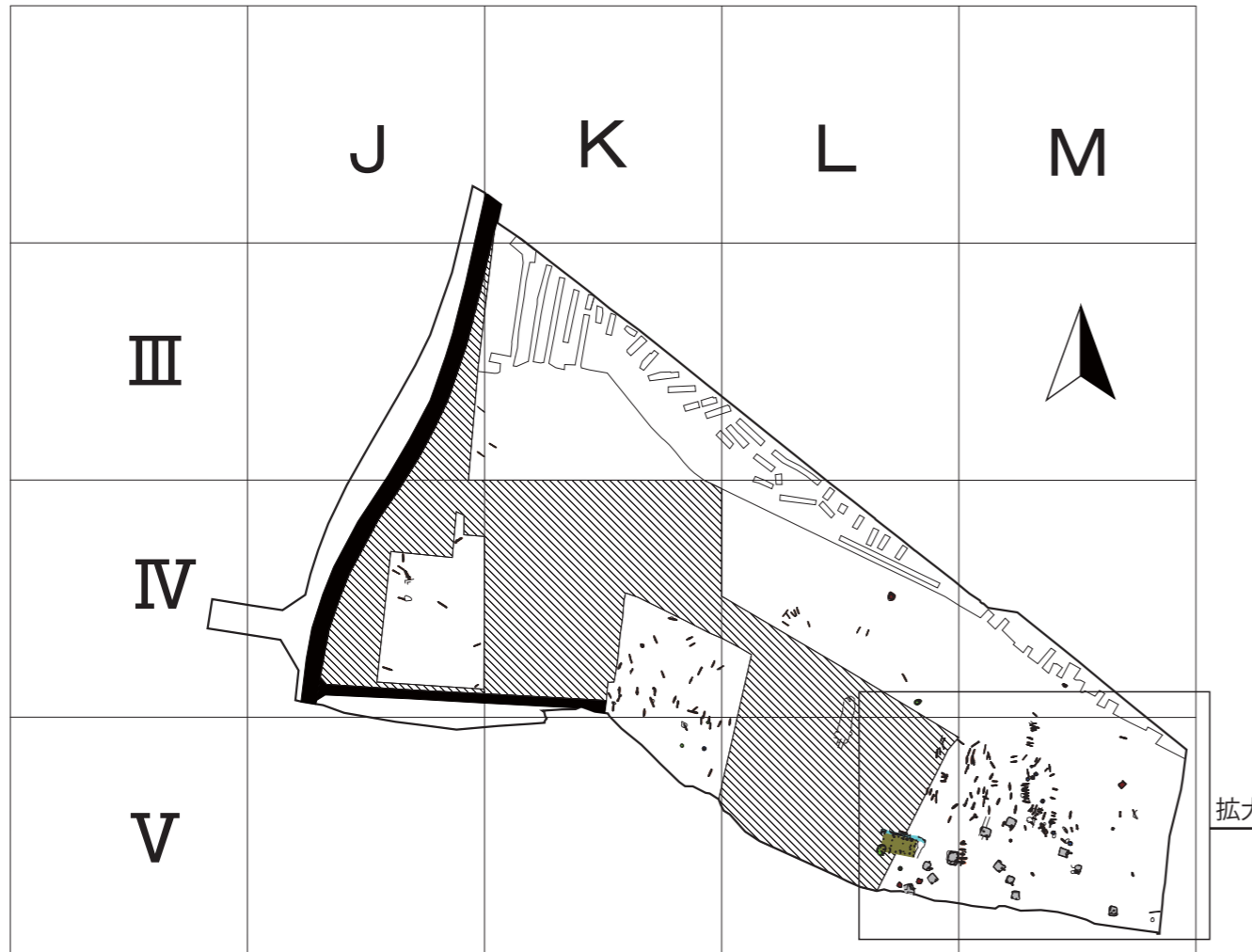
平安時代の竪穴住居跡は、壁際に煮炊きをするためのカマドが設けられています。床面の一部が赤く円形に焼け、その上面は固くしまっています。元々は、焼土を覆うように粘土等で構築されたドーム状の天井があって、その上部に土器を差し込み、下から火をくべて煮炊きをしていたようです。また、煙を屋外へ排出するための煙突としての煙道が掘られています。長い年月の間にカマドは崩落し、その基礎部分だけが原位置を留めています。

竪穴住居跡からは、土師器(はじき)や須恵器(すえき)といった土器が出土しています。炊事や食事に利用していた生活用品です。

平安時代の竪穴住居跡は、調査区の南東部分にのみ分布しています。調査区南端に沿って農業用水路があり、その南側は水田で低地となっていて、当時は付近に自然の沢が流れていたと思われます。生活用水の便と日当たりなどの理由から、この一帯に複数の住居が作られ集落が形成されたと考えられます。各住居が使われていた詳細な時期については、出土遺物をよく観察し検討していく予定です。

岡田遺跡 遺構図

全体図



凡例

<縄文時代>	<平安時代>	<時代不明>
竪穴住居跡	竪穴住居跡	竪穴遺構
陥し穴状遺構		掘立柱建物跡
土坑		井戸跡
		土坑
		塀跡？

